

VISTA 7 ユーザーレポート

国立京都国際会館 Kyoto International Conference Hall 様

VISTA 7



メインホールとメディアセンターに VISTA 7 を採用



財団法人国立京都国際会館
施設部 技術課
小寺 信一

国際交流の場

国立京都国際会館は1966年、東洋唯一、そして日本で初めての国立の国際会議場として建設されました。近年では「温暖化防止京都会議」や「世界水フォーラム会議」等、幾多の政府間会議をはじめ、政治、経済、学術文化の国際交流の場として貢献し、国連主催の会議にも対応できるハード及びソフト面が整備されている施設です。

フルデジタルネットワーク化

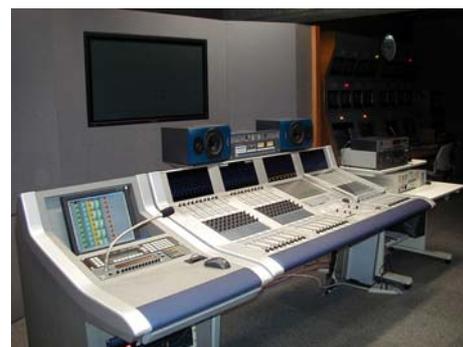
施設リニューアルに伴い、新たなメディアセンターを中心に大小8会議場の音声・映像・同時通

訳装置の光ファイバーによるフルデジタルネットワーク化をめざしました。映像はハイビジョンカメラを採用しHD-SD I、音声はAES/EBU規格に準拠した放送局同様の高い品質と信頼性の構築がなされ、更に全館ネットワークシステムによるMedia Matrixシステムも採用されています。メディアセンターでは各会場からの音声継とその整音及び収録音声用として、またメインホールではSR用として、Vista 7が採用されています。

選択理由

選択理由として、Vista 7は従来のデジタル卓のようにイメージの置き換えが少なく、その質感がハートに直感で伝わってくるということがあります。ディスプレイの色調・デザインなどビジュアル面の配慮は操作の補助として視覚的にも優れ、触れてみたい気持ちになる、既存にはないデジタル卓だと思いました。メインホールのVista7はステージからの距離が150mにもおよびますが、リモートHAは立ち上げ線路ロスなしに威力を発揮、クリアなサウンドを実現しています。同時通訳システムにおける音声を国連の公用語6ヶ国語プラスの言語を8会場に振り分け、同時中継が可能であり、また国内・海外メディアのサービスを含めた会議の総合中継基地としての仕様も満たしていました。さら

に世界的に評価されている高い信頼性と品質を備えている点に注視した次第です。



メディアセンター



メインホール・コントロールルーム